

# 高齢者喘息の気道炎症

*Airway inflammation in elderly patients with asthma*

柚 知行

*Tomoyuki Soma*

埼玉医科大学呼吸器内科／埼玉医科大学アレルギーセンター准教授

## Summary

喘息患者では健常者と比較して呼吸機能低下の進展が著明である。特に高齢者喘息では、生活環境や加齢自体の影響などによって、呼吸機能障害が修飾される。そしてさまざまな併存症による診断の困難性や、治療方針の選択が問題となってくる。しかしながら、これらの変化の基盤となる免疫学的炎症病態に関する知見は少ない。本稿では、“inflammaging”の概念を述べることで加齢に伴って修飾されうる、高齢者喘息の気道炎症病態に関して解説していく。

## Key words

高齢者喘息, inflammaging, 免疫老化, 細胞老化, 慢性全身性炎症, 好中球, 好酸球

## はじめに

近年、社会の高齢化が着目されるにつれて、高齢者の病態様相とその治療が重要視されてきている。経年的な喘息死亡率の減少は吉報といえるが、その中で高齢者の喘息死が増加していることが問題となっている。加齢に伴う呼吸機能の低下は喘息では加速され、さらにはさまざまな疾患の合併による死亡リスクの増大が危惧されている。高齢者喘息においては、その呼吸生理機能の変容に関する報告が集積されているのに対して、基礎病態である気道炎症についての解析は十分とはいえない。本稿では加齢に伴う変化の中で、たとえばストレスや環境などに影響されて潜在性に惹起される慢性全身性炎症について述べ、それらによる高齢者喘息の気道炎症の修飾作用の可能性に関する知見を中心に述べていく。

## I 健常高齢者の細胞老化と免疫能老化

一般的に理解されているのは、加齢に伴い自然免疫能や獲得免疫能は影響を受け、その機能が低下することである。実際、臨床的には高齢者のほ